

## Ⅱ. 研究指定校における取組

研究指定校名 : 鳥取市立富桑小学校

### 1. 学校の概要

学校名	鳥取市立富桑小学校
学級数	11学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全児童数：180人（令和2年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/fuso-e

### 2. 調査研究のテーマ

#### (1) 調査研究のテーマ

なかまがいっぱい、笑顔がいっぱい、やる気がいっぱい

～ユニバーサルデザイン授業によるすべての子どもの学習保障をめざして～

#### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は児童数180名、通常学級8クラス、特別支援学級3クラス（知的1、自閉・情緒1、肢体不自由1）を有し、通常学級で「個別の指導計画」を作成している児童が37名、その他にも特別な配慮を要する児童が多く在籍している。それらの児童の多くは、家庭的に厳しい環境にあり、基本的な生活習慣が十分身につけていなかったり、学習に対する意欲が著しく低かったりする傾向にある。情緒的に不安定で、集団の中で落ち着いて学習することが難しい児童も各学年に複数おり、それらの子どもたちがお互いに刺激し合っており、授業妨害につながるような言動に発展したり、自分の感情のままに手や足が出てしまったりすることがあった。学習集団としての基本的なルールや人を大事にすることを徹底させ、子どもたち一人ひとりに学習権を保障することの重要性と難しさを平成29年度は特に痛感した。

平成24年度より、「学力向上は良好な人間関係の上に成立する」ことを念頭に、学級話し合い活動の充実と国語・算数を中核とした学び合いのある授業づくりに取り組んできた。しかし、児童アンケート「授業はよくわかる」「勉強していておもしろい、楽しいと思う」に対する肯定的な回答の割合（表1）が2年連続して下がった。特に平成30年度は大きく下がっていることに危機感を持った。そこで、授業改善の視点に教科教育と特別支援教育の融合を図ったユニバーサルデザイン授業の考え方を取り入れることにシフトし、すべての子どもが授業に向き合い、「できた」「わかった」を実感できる授業づくりを行うことを通して本校の課題解決に取り組んでいきたいと考えた。

表1 「授業はよくわかる」「勉強していておもしろい、楽しいと思う」の肯定的回答

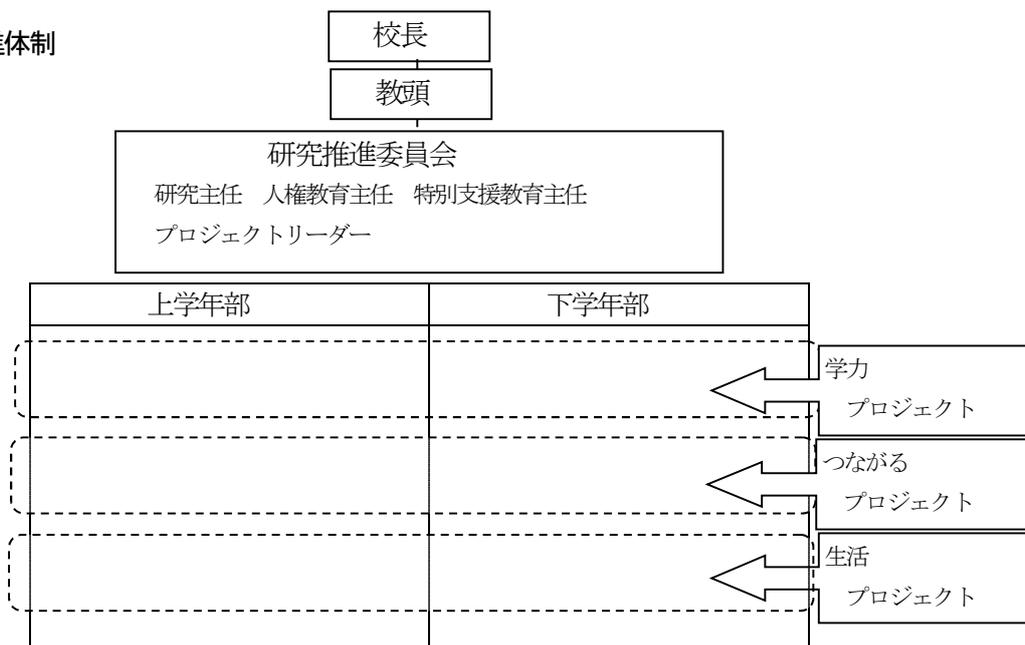
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
授業はよくわかる	90%	85%	83%	93%	83%	76%
勉強していておもしろい、楽しいと思う	80%	79%	72%	83%	76%	62%

#### (3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	

⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

### 3. 調査研究の推進体制



(関係協力機関) ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

### 4. 調査研究の内容等

#### (1) 調査研究の内容等

##### (現状の分析と課題)

表2 平成30年度鳥取県国語・算数診断テスト 正答率の市平均との比較

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語診断テスト	-10%	-13%	-1%	-6%	-5%	+7%
算数診断テスト	-5%	-13%	-5%	-10%	-13%	+5%

表3 平成30年度国語・算数診断テスト意識調査 肯定的回答の市平均との比較

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語が好きですか	-4%	-16%	-22%	-15%	-18%	+1%
算数が好きですか	+2%	-13%	-14%	-15%	-29%	-4%

平成30年度鳥取県国語・算数診断テストの正答率を市の平均と比較すると(表2)、6年以外はどの学年も大きく下回っている。特に、2年は国語、算数共に低い結果となった。特別な教育的支援の必要な児童が2年には特に多く、それらの児童への対応がうまくいかず、学級全体の基本的な学習ルールを定着させることができなかった現れであると捉えている。また、意識調査の「国語・算数が好きですか」の肯定的回答を市平均と比較してみると(表3)、2年・3年・4年・5年がたいへん低かった。特に5年生には学習意欲が極端に低い児童が複数おり、家庭と連携しながら学校としてできることを早急に考え、実践していかなければならない。

表4 児童アンケート「自分にはよいところがある」「クラスや学校の役に立っていると感じたことがある」の肯定的回答

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
自分にはよいところがある	73%	71%	74%	79%	84%	65%
クラスや学校の役に立っている	65%	64%	58%	76%	75%	54%

本校児童の課題として、自己肯定感の低さがある。朝のボランティア活動に取り組む子どもたちに教職員が「ありがとう」「助かるよ」「いい姿だね」などの声を積極的にかけたり、学級の話合い活動で生活上の課題

を解決するための方策を考え、実行し、振り返ることを通して有能感を高めたりするような手立てを取ってきた。しかし、自己肯定感の低さはなかなか改善できず、自分のイライラした気持ちを人に向けて発散しようとする子どもが増えてきつつあることは大きな課題である。そこで、学校で過ごす大部分の時間である授業を大胆に改善し、「わかった」「できた」という思いがもてる構造化された授業づくりを通して自己肯定感を高めることが本校の子どもたちには必要だと考える。

### (調査研究の内容)

上記の課題を踏まえ、次のような仮説を設定する。

#### <仮説1>

ユニバーサルデザインの考え方を授業づくりに取り入れれば、子どもたちが「わかった」「できた」という満足感や達成感をもつことができるであろう。授業の山場を想定し、そこから逆算して考えることによって、できるだけシンプルに授業を展開することができ、子どもたちの学習に対する満足度が上がるであろう。

#### <仮説2>

「その子にわかるような授業をしたら、どの子にもわかる授業になる」という観点で児童を抽出し、つまづきを想定しながら具体的な指導の工夫や手だてを考えることによって、一人ひとりの学習を保障する授業づくりができるであろう。

#### <仮説3>

学びの基盤となる学級経営と基本的生活習慣の取組を全校で共通実践し、めざす子どもの姿に向かって指導すべき所を徹底することによって、児童が安心して学習に取り組めるようになるであろう。

### (実施方法)

#### ○ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくり (UD授業)

全ての児童が、授業に満足感や達成感を持てるよう、楽しく「わかった」「できた」「身に付いた」と言える授業づくりをめざすこととした。まず、UD授業を実践するにあたり、東京都の日野第三小学校前校長の京極澄子先生においていただき、授業のユニバーサルデザインの考え方や具体的な取り組み方について講演をしていただいた。その講演内容をもとに、実践に取り組んだ。

<研究教科>算数科 <対象学年>全学年

#### <実施内容>

##### ① 環境を整える

授業に集中し、落ち着いて生活できる体制を整えるために、次のことに取り組んだ。

- ・場の構造化…ものを置く位置をわかりやすくする。
- ・刺激量の調節…教室前面はすっきりと、指示は完結明瞭にする等
- ・ルールの明確化…学習中のルール、生活のルールは視覚化するなどわかりやすくする。
- ・時間の構造化…授業の流れを提示し、見通しを持たせる。

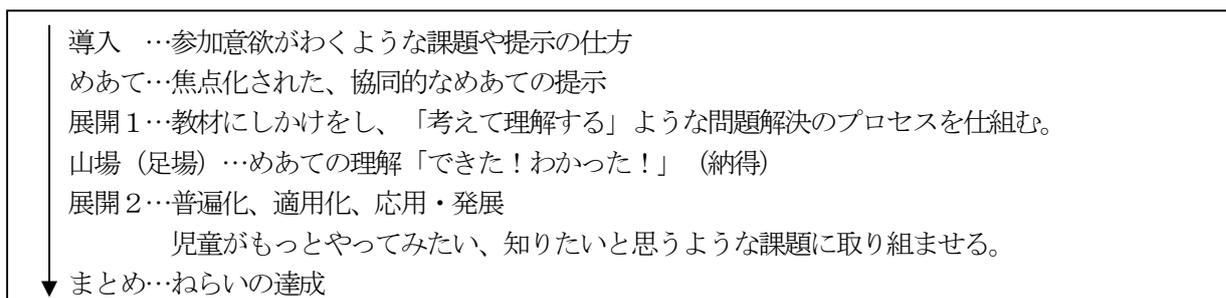
##### ② UD授業の実践

授業中、児童の不参加が生じやすいのは「聞くだけの時間」である。そこで、一人ひとりの子どもの「考える時間」を増やすために、「焦点化・視点化・共有化」という3つの要件を意識しながら授業を組み立てていった。

- ・焦点化…目標や発問、活動をしぼり、内容理解から論理へ深まるようにする。  
目標や発問をしぼることで、何について考えればよいのかがわかりやすく、取り組もうとする意欲が持てる。
- ・視覚化…視覚・感覚・動作を入り口にして、思考できるようにする。  
課題の把握、課題解決の過程、思考過程、既習事項など、見える化することで児童の理解が深まる。
- ・共有化…一人の考えを他の児童に伝え、それまでの自分の見方や考え方を深める。  
自分の考えを持たせて、ペアやグループ活動で自分の意見を伝える。  
話し合い活動の目的を教師が明確にして行う。授業のどの場面で話し合いを取り入れるのがよいのかを吟味することが大切。



また、「展開の構造化」について全教職員で共通理解し、実践した。



この展開を実践するにあたり、

- ・ねらいを達成するためには、どのような展開がよいのかと逆算して考えること
- ・児童がめあてを達成する山場（足場）までの時間を20分とし、展開2の適用題に取り組む時間を十分に確保すること
- ・個への配慮を考えること  
等についても共通理解をし、児童が「わかった」「できた」という思いを持てるような授業をめざして取り組んだ。

#### ○学級経営と基本的生活習慣で必ず実践していきたいことの共通理解・共通実践

年度当初、教職員が同じ目線で児童に声かけができるよう、廊下歩行や服装、時間を守ること等、いくつかのルールについて共通理解を行った。また、学びの土台である学級において児童がお互いを認め合い、居心地よく生活ができるよう、学級経営についての研修や児童の自己肯定感を高める活動に取り組んだ。

#### ① 教職員研修「児童の話聞くためのスキル」 講師 加古川刑務所 溝口慎二さん

自己肯定感が低く、対人関係を上手く築くのが苦手で、愛着障害を抱えた少年たちが大勢いる少年院での実践をもとに、よりよい児童への接し方や指導方法についての講義・演習を行っていただいた。日々、荒れている少年たちに根気強く愛情を持って接しておられる様子や指導方法を聞き、学校現場でも使える内容がたくさんあり、大変参考になった。

- ・一人ひとりが困っていることを理解し、手取り足取り・懇切丁寧に指導していく。
- ・ルールの徹底。壁面掲示等でわかりやすく。トラブル時はみんなで話し合う。
- ・自分を上手く表現できないことへの対処 →スキルトレーニング。
- ・少年との距離感を考える。暴言を吐かれても冷静に。距離感を変えても、「ずっとあなたを見ているよ」というスタンスは変えない。
- ・再出発後のことも考えて →保護者などへの働きかけ、周りの理解を広めていく。
- ・困ったときは悩みすぎず協力する。あきらめずに取り組んでいく。



午後からは演習があった。グループで実際にディスカッションをして児童がどんどん話したくなるような話の聞き方について考えたり、職員自身が人とのかかわり方どのような傾向があるかを調べ、その対策を考えたり等、今後の児童との接し方に活用できる研修であった。



#### ② 学校内での取組

##### <つながりタイム>

ペアやグループ、学級全体によるふれあい体験や、感情を調節し理解するワークを継続的に行うことを通して、子どもたちが共に生きるためのルールやマナーを身に付け、人と上手くかかわり合う力を高めることをねらいとして、スタートさせた。毎週火曜日の昼休憩後に行った。ゲーム感覚で取り組めることもあり、児童は笑顔で楽しそうに毎週取り組んでいた。



##### <ありがとうカードの取組>

「ありがとう」の気持ちを互いに示し合い、友達役に立っていることを実感することで、自尊感情と他者

を大切にすることを育まれると考え、学級の仲間同士で、掃除、係活動、給食当番などの仕事に対する感謝の気持ちを表した「ありがとうカード」の交換を始めた。交換後のカードは、連絡帳に貼らせたり教室掲示をしたりして、大切に蓄積するようにさせた。

**(検証・評価)**

表5 「授業はよくわかる」「勉強していておもしろい、楽しいと思う」の肯定的回答

	H26	H27	H28	H29	H30	R 1
授業はよくわかる	85%	83%	93%	83%	76%	86%
勉強していておもしろい、楽しいと思う	79%	72%	83%	76%	62%	73%

表6 令和元年度「国語・算数が好きか」の肯定的回答(%) 数字・数値が下がっている

学年 月	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	6	12	6	12	6	12	6	12	6	12	6	12
国語が好きですか	65	73	68	71	47	44	45	80	46	54	32	44
算数が好きですか	80	80	100	88	60	53	40	55	58	50	36	44

H29、30年度において、児童アンケート「授業はよくわかる」「勉強していておもしろい、楽しいと思う」の項目で肯定的回答の割合が下がっていたが、今年度は86%、73%で、+10%、+11%であることがわかった(表5)。UD授業の実践で、理解に時間のかかる児童や集中力の続かない児童も少しずつではあるが、授業に対して興味・関心をもって取り組めるようになりつつあると思われる。しかし、「国語・算数は好きですか」という教科を特定した回答を調べてみると、学年により差があることがわかった(表6)。

表7 令和元年度鳥取県国語・算数診断テスト 正答率の市平均との比較

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語診断テスト	-11%	-10%	-4%	0%	-3%	-11%
算数診断テスト	-7%	-6%	-10%	+6%	-11%	-12%

(※国語については、まだ鳥取市の集計が発表されていないため、平成30年度の平均と比較した。)

また、令和元年度の国語・算数診断テストの正答率を市と比較してみると、4年生以外は市よりも低い結果となり、前年度とほぼ変わらない結果となっている(表7)。気持ちの面では、学習に対して肯定的な回答が増えているが、実際学力が定着してきているかということ、そうではないことがこれらの結果よりわかった。

表8 児童アンケート「自分にはよいところがある」「クラスや学校の役に立っていると感じたことがある」の肯定的回答

	H26	H27	H28	H29	H30	R 1
自分にはよいところがある	71%	74%	79%	84%	65%	70%
クラスや学校の役に立っている	64%	58%	76%	75%	54%	62%

表8の自己肯定感の面でアンケートを見ていくと、「自分にはよいところがある」+5%、「クラスや学校の役に立っている」+8%で、自分のよさや役立ち感を感じている児童が少しではあるが増えている。つながりタイムやありがとうカードの取組、または日常の児童同士、教職員とのよいかかわり方が成果となって表れているのではないと思われる。

学級経営や基本的生活習慣定着の取組については来年度も継続して行っていきたい。学力定着については不十分な面があるので、今後もUD授業の実践を生かしながら、より学力定着に向けて研修を深めていきたい。特に、自分の考えをアウトプットする場面(共有化)を効果的に取り入れることで学力定着をめざしたい。

今年度、様々な研修参加を西中学校区の他の小・中学校にも呼びかけて行ってきたが、今後もお互いの情報や成果を共有しながら、児童の成長に効果的な方法を探り、実践していきたい。

**(普及)**

今後は、東部教育局や鳥取市教育委員会の指導を受けながら継続してUD授業に取り組み、研究の成果と課題

を西中学校区の他の小・中学校と共有し、校区内の課題解決に向けて効果的な取組を広めていく。また、研究で確立した基本的な授業スタイルを異動してきた教職員にも確実に伝えていく。

## (2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
5月8日	・第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者：教職員2人
5月9日	・研究推進委員会開催 (研究推進計画の協議・検討)	参加者：7人
5月21日	・教職員研修…今年度の研修について、UD授業	参加者：全教職員
6月5日	・教職員研修…クラス会議研修	参加者：全教職員
6月17日	・校内授業研究会① 講師 京極澄子先生(前 明星大学発達支援センター研究員) 西垣卓宏係長(県教育委員会人権教育課) 平野靖博社会教育主事(県教育委員会東部教育局) 福田美奈主幹(鳥取市教育委員会学校教育課)	参加者：全教職員
7月3日	・アセス研修	参加者：全教職員
7月	・第1回アセスの実施と分析 ・児童アンケート	参加者：学級担任
7月10日	・教職員研修「みんなで教師サポートカアップ」 講師 谷口太郎先生(鳥取市教育委員会学校教育課)	参加者：全教職員
7月25日	・仲間づくり作戦会議	参加者：全教職員
7月30日	・教職員研修…学級経営について 講師 豊福 聡先生(鳥取市教育委員会学校教育課)	参加者：全教職員
8月1日	・教職員研修…児童の話聞くためのスキル 講師 溝口慎二さん(加古川刑務所)	参加者：全教職員 他校教職員9人 法務少年支援センターより6人
8月21日	・教職員研修「知能検査・NRT結果を使って楽しく学級経営」 講師 松下成子先生(鳥取県スクールカウンセラー)	参加者：全教職員
8月22日	・教職員研修「チーム力を上げる」 講師 下村健明さん(法務少年支援センター)	参加者：全教職員
9月11日	・校内授業研究会②	参加者：全教職員
11月6日	・校内授業研究会③ 講師 京極澄子先生(前 明星大学発達支援センター研究員) 西垣卓宏係長(県教育委員会人権教育課) 平野靖博社会教育主事(東部教育局) 福田美奈主幹(鳥取市教育委員会)	参加者：全教職員
12月	・第2回アセスの実施と分析 ・児童・保護者アンケート	参加者：学級担任
2月	・教職員研修…来年度に向けて	参加者全教職員
2月10日	・第2回「人権教育研究推進事業」報告会及び連絡協議会	参加者：教職員1人

## (3) 人権教育に係る年間指導計画

別紙参照